

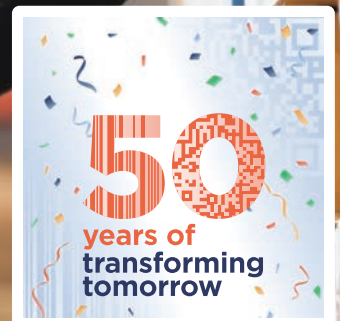
ジーエスワン ジャパン

# GS1 Japan News

一般財団法人 流通システム開発センター

世界標準のGS1標準で、安全・安心、効率的なサプライチェーンを推進します

第22号  
2023年9月



GS1 総会をベルギーのアントワープで開催 ..... P.2  
製・配・販連携協議会 総会 / フォーラム 開催報告 ..... P.3  
GS1 Connect 2023 ..... P.4

FOOMA JAPAN 2023 出展! ..... P.5  
リテールテック大阪 2023 に出展 ..... P.6  
アジア・シームレス物流フォーラムに出展 ..... P.7

# GS1 総会をベルギーのアントワープで開催

## — GS1 の事業計画・中期戦略を承認 —

GS1 は、2023 年 5 月 24 日に各国加盟組織（GS1 MO）が集まる総会をベルギーのアントワープで開催した。コロナ禍においてはオンラインのみの開催を余儀なくされていたが、昨年、3 年ぶりに対面を含んだハイブリッド会議で総会を開催した。今回の総会もハイブリッド形式を維持して開催された。

今般の総会には、105 の GS1 MO から、237 名が参加登録し、うち 183 名が対面で、残りの 54 名がオンラインで参加した。GS1 Japan からは、杉谷専務理事と森が現地にて出席した。

### 「規制動向の把握と対応」が重要に

GS1 総会は、GS1 の最高意思決定機関である。前日の理事会の承認を経て上程された「22/23 年度の事業報告」、「23/24 年度の GS1 本部予算」、「23 - 26 年度の 3 ヶ年計画」、「事業戦略」の更新版などを承認した。

GS1 では、戦略的取り組みセクターとして、小売りと EC 事業者およびヘルスケアを最重要視している。また近年、物流やロジスティクス、生産財（建設、鉄道など含む）の分野も新しい対象としている。今回更新した戦略では、加えて「規制当局」も重要分野として位置付けた。

これは、各国でさまざまな規制の制定が進んでおり、事業者に大きな影響を及ぼしているためである。ヘルスケアは以前から規制業界であるが、消費者の安全やサステナビリティなどに関わる規制が世界各地で制定されている。多くの場合、こうした規制は、商品・製品について、その製造、取引と利用も含めたライフサイクル全般において、より多くの情報の提供や交換を求めることにな

る。GS1 としては、こうした規制にも対応した形での事業者の情報交換をサポートするため、共通 ID や情報交換の方式について、政府や規制当局の理解を促進する活動の必要性をこれまで以上に強く認識している。

事業においては、「各種レジストリーの利用拡大」、「二次元シンボル利用の推進」が重要課題となっている。2019 年の総会で GS1 は「シンガポール宣言」を推進することを決議した。これは各種 GS1 標準コードの「本当にコアな基本情報」を各国の組織が収集し、その利用を可能にするというものである。この実現のため、GS1 事業者コード、GTIN、GLN の基本情報を格納する「GS1 レジストリー・プラットフォーム（GRP）」の構築を推進してきた。2023 年 6 月に、GS1 本部側が提供する GRP インフラの基本機能の構築は完了し、今後は各国の機能実装や、利用の拡大に重点を置いて取り組むこととなった。

二次元シンボルに関しては、プレナリーに登壇した企業の理事メンバーからも期待が寄せられており、各国で企業の導入やパイロットの支援に注力する。

### イオン(株)菓子氏が GS1 理事に就任

GS1 総会では、ガバナンスに関わる事項も決定する。GS1 理事メンバーも今回の総会で新任・再任された。日本の企業からは、新たに、イオン(株)DX 推進担当の菓子豊文氏が理事として選任された(図参照)。

### 日本は GS1 加盟 45 周年

GS1 総会の最終の全体会議では、各国組織の GS1 加盟の 5 年ごとの節目を祝うのが恒例である。

当財団は、1978 年に当時の



イオン(株) 菓子 豊文 (かし とよふみ) 氏 略歴	
1986 年	ジャスコ(株) (現イオン(株)) 入社
1996 年	ジャヤ・ジャスコストアーズ (現イオンマレーシア) 出向
2002 年	同社 商品本部 統括本部長
2003 年	イオン(株) 川口前川店 店長
2008 年	同社 関東カンパニー 茨城事業部長
2010 年	イオンリテール(株) 執行役員 兼 営業企画本部ネット推進部長
2012 年	イオンインドネシア 代表取締役社長
2021 年	イオン(株) DX 推進担当 (現職)

図 GS1 の理事として新たに選任されたイオン(株)DX 推進担当 菓子豊文氏 (上) と略歴

EAN 協会 (現 GS1) に加盟しており、2023 年で加盟 45 周年を迎えた。これを記念し、GS1 の理事会議長である J&J 社の Kathy Wengel 氏、および GS1 CEO の Renaud de Barbuat 氏から記念のプレートを授与された (写真)。



写真 記念プレートを授与される GS1 Japan 杉谷専務理事 (中央左) と筆者 (中央右)

当財団では、引き続き事業者の DX をサポートし、消費者や患者の安全・安心をより確かなものとするための GS1 標準の活用を今後も推進していく。

(GS1 Japan 理事 森)

# 製・配・販連携協議会 総会／フォーラム 開催報告

— 2024年問題を前にして、議論を加速 —

## 総会／フォーラムの開催

製・配・販連携協議会（以下、協議会）は、消費財分野におけるメーカー（製）、中間流通・卸（配）、小売（販）の連携により、サプライチェーン・マネジメントの抜本的なイノベーション・改善を図り、もって産業競争力を高め、豊かな国民生活への貢献を目指すことを目的として2011年に設立され、現在、54社が加盟している。

直近では、2022年度総会／フォーラムにて当時の協議会加盟企業45社により、「フィジカルインターネット<sup>(注)</sup>実現に向けたスーパーマーケット等アクションプラン」賛同宣言が行われるなど、物流を取り巻く諸問題を中心に議論を行っている。

2023年7月14日、明治記念館（東京・港）で総会／フォーラムを開催し、約190名が参加した。

(注) フィジカルインターネットとは、インターネット通信の考え方を物流（フィジカル）に適用した新しい物流の仕組みのこと。

## 成果報告と2023年度活動方針

当財団と協議会共同事務局を務める（公財）流通経済研究所が、2022年度協議会の下に設置した、四つのWG（商品・物流におけるコード体系標準化WG/物流資材の標準化および運用検討WG/取引透明化に向けた商慣習検討WG/データ共有による物流効率化検討WG）の成果報告と2023年度の活動方針について説明し、承認された。

引き続きフィジカルインターネット実現に向けた検討を進めるが、2023年度は各WGの下に「分科会」を設置し、サービスベンダーや実務

者を含めて、より詳細かつ具体的な議論が行われる予定である。

## 直近の物流をめぐる施策

続いて、経済産業省 中野剛志 消費・流通政策課長が、直近の物流に関する施策について説明した。

2023年3月の関係閣僚会議と総理指示、6月に発表された「物流革新に向けた政策パッケージ」を受け、経済産業省、農林水産省、国土交通省の3省は「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」を策定した。その中で、発荷主事業者および着荷主事業者に対して、荷待ちや荷役作業などにかかる時間を把握した上、それらの時間を2時間以内とする点が重要であると強調し、業界の特性により難しい場合は、代わりとなる指標を自主行動計画内で策定し、対応してほしいとした。現状を変革し、2024年問題に対応していくためには、発荷主、着荷主、物流事業者の3者同時に義務を課し、3者共同で取り組むことが重要である旨、説明した。

## SCI大賞受賞者の発表

総会／フォーラムでは、毎年、国内におけるサプライチェーン全体の最適化に向け、製・配・販各層の協力の下、優れた取り組みを行い、業界をけん引した事業者に対しその功績をサプライチェーンイノベーション大賞（SCI大賞）として表彰している。今回は、「メニュープライシング



SCI大賞受賞式の様子

活用による持続可能な物流の推進」に取り組んだ、ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング(株)が大賞を受賞し、同社取締役副社長篠原亜季氏が受賞スピーチを、宮口昌久氏が受賞内容を紹介した。

同社では、商品価格と物流サービス価格を分離する「メニュープライシング」を導入し、対応する物流サービスの項目に応じて物流サービス価格を変動させる仕組みを実現した。メニュープライシング導入後は、パレットでの発注が増加し、納品トラック台数の削減や、CO2排出量削減も実現している。一方、往復実車率の改善や、ドライバーの標準作業と付帯作業の切り分けや可視化が課題であることも指摘した。

SCI大賞 優秀賞は、以下の3グループが受賞した。大賞、優秀賞の各取り組みの詳細は、HPに掲載している。ぜひご覧いただきたい。

- ① ユニ・チャーム(株)、ジャベル(株)、(株)キューソー流通システム
- ② (株)PALTAC、(株)キリン堂、(株)クスのアオキ、(株)薬王堂、(株)ユタカファーマシー、(株)こんの、(株)宮崎
- ③ 首都圏SM物流研究会（サミット(株)、(株)マルエツ、(株)ヤオコー、(株)ライフコーポレーション）  
（製・配・販連携協議会事務局 前川）

# GS1 Connect 2023

— 米国コロラド州デンバーにて開催 —

2023年6月5日から7日にかけて、米国コロラド州デンバーでGS1 Connect 2023が盛大に開催された。GS1 Connectは、小売業、製造業、物流業、ヘルスケア、学术界、そしてソリューションプロバイダーなど、極めて幅広い分野の業界関係者が一堂に会する、GS1 US主催の年次イベントである。イベント主催者によると、今回500を超える企業から約1000名が参加し盛況のうちに終了した。

イベントは、基調講演を皮切りに50以上の講演が並行して行われ、同時に約50社がブースを出展し、会議を一層盛り上げた。さらに、参加企業間の交流やネットワーキングを促進する目的で、小売業(取引先)担当者と自由に会話をする事ができる“Trading Partner Roundtable”や、主に小売業によるビジネス戦略と取引先に希望する事項を説明する“How to Do Business With”と題したセッションも用意され、会議以外でも情報交換や交流が熱心に行われていた。



セッションの様子

## Netflixの共同設立者、Marc Randolph氏による基調講演

基調講演では、Netflixの共同設立者であるMarc Randolph氏が「That Will Never Work: The Birth of Netflix and the Amazing Life of an Idea」と題した講演を行

った。Randolph氏は、ビジネスモデルの革新的な構築と発展、そしてポジティブで柔軟な思考の重要性について、Netflixを立ち上げて世界有数の企業に発展させた経験を基に、エピソードを交えて鮮やかに語った。



Randolph氏(右)

## 二次元シンボル(QRコード)とRFタグ(EPC)の活用推進

消費者の情報ニーズの高まりを受け、一次元シンボルよりも豊富なデータを格納、活用できる二次元シンボル(QRコード)やRFタグ(EPC)に対する関心が高まっている。本イベントでも、QRコードとRFタグに関する多数の講演が行われた。

ここでは、Puma North America社のLauren Antenucci氏の講演に焦点を当てたい。同社は2019年8月にニューヨークにフラッグシップストアをオープンし、デジタル戦略の一環として店舗商品を個品(シリアル番号)レベルで管理し、購入前および購入後でも消費者への情報提供(カスタマーエンゲージメント)を可能にしたり、AR(Augmented Reality)を活用した販促、ディスプレイなどを試したりしている。

この消費者への情報提供やARを活用した販促を実施するために、各商品にQRコードとRFタグを印刷したタグが取り付けられている。2019年当初、約2万SKUの商品に対して物流センターでタグを取り付けていたが、2021年には工場でのタグ取り付けに切り替えた。

これらのQRコードとRFタグは、先に述べた消費者への情報提供やAR体験の提供だけにとどまらず、現在ではPOSレジでの利用、盗難防止、マーケティングなど、広範な目的での活用が試されている。

これらのQRコードには、GS1 Digital LinkというGS1標準が活用されている。GS1 Digital Linkは、商品やサービスを一意に識別するGTIN(JANコードなど)のGS1識別コードから、商品情報ページやキャンペーン、リコールの通知など、商品に関するさまざまなインターネット上の情報やサービスの所在を発見するための仕組みである。近年多くの企業でデジタル戦略を推進しており、その課題の一つとしてデジタルツインが挙げられる。フィジカルな物体をデジタルでも表現するに当たり、このGS1 Digital Linkは有用かつ基礎に当たる部分となり得ると期待されている。

GS1 Digital Linkの詳細は以下のウェブページをご覧ください(<https://www.gs1jp.org/standard/gs1digital/gs1digitallink.html>)。



講演の様子

次回、2024年度のGS1 Connectは6月4日～6日、米国フロリダ州オーランドで開催を予定している。

(グローバル業界グループ 岩崎)

# FOOMA JAPAN 2023 出展!

— 原材料から POS で読み取る商品まで!二次元シンボルを活用しませんか —

GS1 Japan は、食品関連機器・ソリューションの国内最大級規模の展示会である「FOOMA JAPAN 2023」(会期:6月6日~9日、来場者数:10万6104人)に出展した。



近年、人手不足の解消や DX 推進のために、属性情報を表示できる GS1 標準バーコード(特に、二次元シンボル)の活用が開始されている。GS1 Japan では、2017 年に「原材料識別のためのバーコードガイドライン」を公開し、食品原材料や業務資材への GS1 二次元シンボル活用推進を開始した。また、2020 年 9 月には「ケース単位への日付情報等のバーコード表示ガイドライン」を発行し、一般消費財のケース単位への普及活動を開始、2022 年からは POS レジで読み取る商品での活用も推進している。

そのため、FOOMA 2023 では「原材料」「一般消費財のケース単位」「POS で読み取る商品」での GS1 二次元シンボルのさまざまな活用方法の展示と、二次元シンボル読取、活用のデモンストレーションを行った。

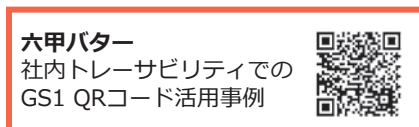
## 食品原材料、一般消費財ケース単位での GS1 二次元シンボル活用

食品原材料やケース単位においては、人手不足の解消や物流危機への対応から、業務効率化、省人化の検討が活発に進んでいる。さらに、消

費者の安全・安心への関心の高まりからトレーサビリティ確保を検討する企業も増えてきている。

トレーサビリティの実施に必要な情報(例:ロットや賞味期限)を確認、記録する方法はさまざまあるが、目視確認や手入力では時間がかかる上にミスの発生リスクもある。また、企業間を跨ぎトレーサビリティを行うには、共通のルールを用いる必要があり、個々の企業対応では実現できない。

GS1 標準を活用し、必要な情報をバーコード化することにより、企業間のトレーサビリティを「効率的に」、「ミスなく」実現することが可能である。すでに、六甲バター(株)では GS1 QR コードを商品のケース単位に印字し、社内トレーサビリティに活用している(下記 QR コード参照)。



## POS レジで読み取る商品での GS1 二次元シンボル活用

POS レジで読み取る商品についても、ロットや日付等を GTIN と一緒にバーコード表示し活用することによりさまざまなメリットがある。例えば、細かな粒度の販売情報をデータ化し、トレーサビリティの確保や高度な販売戦略に活用できる。また、高い業務負荷がかかる値下げ業務や店舗内検品も、二次元シンボルを活用することにより、効率的にミスなく行うことが可能である。

2023 年 2 月に実施された(株)まいづる百貨店における実証実験では、ダイナミックプライシングの実現を GS1 データマトリックスの活用と

システム設計、オペレーションで行い、値引きシール貼付時間の削減を達成している(下記 QR コード参照)。

まいづる百貨店  
GS1 データマトリックスを活用した  
ダイナミックプライシングの実践



## GS1 Digital Link の可能性

POS レジで読み取る商品に二次元シンボルを表示し、POS レジでの読取と消費者向けの情報提供を行う際には GS1 Digital Link 形式の QR コードが推奨されている。

例えば、シンボルにロット番号や賞味期限をエンコードすることにより、ロット番号別の情報提供(原材料情報や生産工場の表示)や、季節ごとのキャンペーン情報を掲載することが可能である。もちろん、POS レジでの読取も想定されているため、現在のパッケージでよく見かける QR コードと JAN シンボルといった複数のシンボル表示を一つのシンボルでまとめ、余ったスペースを商品 PR に活用できるというメリットもある。

FOOMA では実際の印字サンプルを展示し、その中で GS1 Digital Link QR コードのデモページへのアクセスを可能とした。下記 QR コードからアクセスしていただくことにより、デモページを閲覧できる。

GS1 Digital Link形式の  
QRコード



(01)0491234500057

さまざまな業務効率化、ソリューション展開の可能性がある GS1 二次元シンボルをぜひ広くご活用いただきたい。

(グロサリー業界グループ 分部)

# リテールテック大阪 2023 に出展

— 開催3回目で初の制限なしでの開催、前回より6割増の1万2000人が来場 —

2023年7月20日と21日の2日間、インテックス大阪（大阪市）で「リテールテック大阪2023」が開催された。

リテールテックは、日本経済新聞社が主催する総合展示会「日経メッセ 街づくり・店づくり総合展」の一つであり、毎年3月に東京を会場に「リテールテック JAPAN」（以下、東京展）が開かれている。その大阪版として新たに立ち上げられた「日経メッセ大阪」の一つとして開催されるのが、この「リテールテック大阪（今回よりリテールテック OSAKA から改称）」（以下、大阪展）である。

今回の大阪展への出展社数は前回の37社を上回る52社であった。また、今年度から新たに「JAPAN SHOP 大阪」と「SECURITY SHOW 大阪」が加わり、既存展の「フランチャイズ・ショー大阪」と合わせて4展での同時開催となったことで「日経メッセ大阪2023」全体では出展社数232社（前回131社）となり、規模が大きく拡大した。

GS1 Japan 出展ブースは、東京展と同様、当財団が取り組むGS1標準のGTIN（JANコードなど）、データベースサービス、バーコード、EPC/RFID（電子タグ）、ヘル

スケアなどのパネル展示コーナーとデモコーナーで構成。デモコーナーでは電子タグの読み取りに加え、今回初となるGS1二次元シンボルの読み取りの二つの実演を行った。

電子タグのデモは、商品やパレットに見立てたミニチュアにEPCの電子タグを付けて、一つ一つ読み分けが可能であることを実演することで、標準化されたコードのメリットを示した。

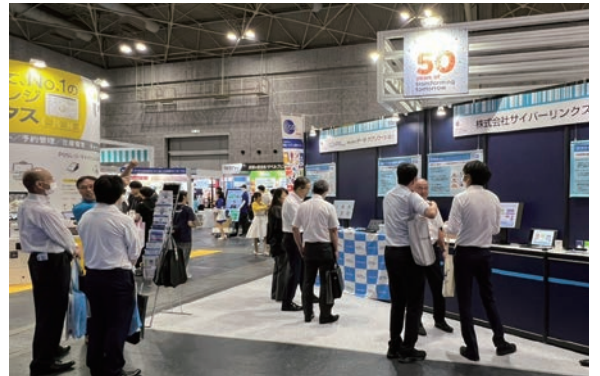
また、GS1二次元シンボルのデモは、GTINに加えて賞味・消費期限やロット番号をデータに追加し、GS1標準である二次元シンボルをハンディスキャナで読み取る実演を行った。これによりダイナミックプライシングの導入、期限切れ商品の誤売防止、さらに用途に応じて二次元シンボルとJANコードといった複数印刷しているシンボル表示を一つにまとめることができるなど、数々の活用提案やメリットを示した。

## ブース内にGS1 Japanパートナー会員企業向け出展コーナーを設置

また、今回も当財団のブース内にGS1 Japanパートナー会員（以下、GJP 会員）企業向けの出展コーナーを設置、流通BMS関連2社が出展し、提供している自社製品、サービスについての展示や詳細な説明などを行った。両社に今回の展示会について感触を伺ったところ、「昨年を上回る数の名刺交換ができた」、「ブースへ立ち寄った客数もさることながら、商談につながるような、より深い打ち合わせができた」とのこと



それぞれのデモコーナーで来場者に仕組みを説明



GJP 会員企業のコーナーに立ち寄り熱心に展示を見る来場者

うである。

## 4展での同時開催により集客力に大幅な向上も

新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、感染対策に伴う各種の規制が大幅に緩和されたこと、さらには3回目の開催で大阪展の認知度が向上したことに加え、4展での同時開催が、集客の大幅な向上につながったと思われる。

前述した出展の2社とは別のGJP 会員企業の方が当財団ブースに立ち寄せられたが、今後の出展を検討するための視察とのことであった。本展示会への期待度の高まりが感じられた一幕であった。

本展示会の会期中の様子は、日経メッセホームページの「リテールテック大阪」頁内のフォトギャラリー「2023年度 フォト一覧」(<https://messe.nikkei.co.jp/rs/photo/>)に写真が掲載されているので、併せてご参照いただきたい。

当財団は、今後も東京展・大阪展ともに参加し、GJP 会員の皆さまに出展いただけるスペースを設けていく予定である。自社の製品、サービスをアピールする場として両展示会をご活用いただければ幸いである。

（GS1 Japanパートナー会員制度事務局 瀧澤）

# アジア・シームレス物流フォーラムに出展

— 4年ぶりのリアル参集型フォーラムとして盛況のうちに終了 —

2023年5月25日と26日の2日間、東京流通センター第二展示場E・Fホールにて、アジア・シームレス物流フォーラム2023が開催された。本フォーラムは、(一社)日本マテリアルフロー研究センターが主催し、(株)流通研究社が企画・運営しているフォーラムである。2012年から始まり、今年で12回目の開催となった。過去3回はコロナ禍の影響でオンライン開催だったため、4年ぶりのリアル参集型に来場者も多く、熱気があるフォーラムとなった。GS1 Japanは、本フォーラムの後援団体として継続的に支援しており、パンフレットなどの配布およびパネル展示を行った。当財団の展示ブースへ多くの方にお立ち寄りいただき、特に物流関係者からは熱心な質問が多くあった。

## アジア・シームレス物流フォーラム2023開催趣旨

アジア・シームレス物流フォーラムの基本コンセプトは、流通研究社の故平原直名誉会長の掲げた「アジア善隣物流」構想をベースとしており、アジアの物流シームレス化による相互連携の実現がその目指すところである。この構想の下、過去のフォーラムでは「標準化」「見える化」「安全・環境・強靱化」「先端技術活用」などのさまざまなテーマで開催してきた。そして本フォーラムでは「物流DX」「Withコロナ」「2024



セミナーの様子

年問題」「SDGs/カーボンニュートラル」「EC急拡大」「災害対応ロジ」といったテーマを掲げ、このテーマに基づく展示、セミナーが行われた。

## セミナーの概要

本フォーラムで開催されたセミナーは、開催日前に満員となり当日分の入場券を求めて長い列ができていた。また、展示ブースも、多くの来場者で賑わっていた。

盛況となった理由は、アフターコロナの機運もさることながら、参加者の物流に対する意識、関心が高まっていることが挙げられる。つまり、2020年以来の世界的なコロナ危機による国際物流の混乱、2022年のロシアによるウクライナ侵攻を引き金とした世界的なエネルギー価格や物価の高騰、台湾有事が懸念される米中対立など、複雑化する世界経済を背景に、日本でも安定的なサプライチェーンの維持が必要であり、そのベースになる物流輸送の重要性が、メディアで多く取り上げられるようになったからだと思われる。

国内物流においては、トラックドライバー不足やガソリン代などの価格上昇により、物流コストインフレが発生している。特に、道路貨物輸送のサービス価格や宅配便などの価格も上昇している。加えて、トラックドライバーの時間外労働の上限規制による物流の2024年問題が、物流業界に重くのしかかってくることになる。

## GS1に対する期待

このような状況の中、GS1が提供する標準が物流問題の解決の手段になり得ると考える人が増えている

と感じる。実際、ブースにお越しただいた方からGS1標準の識別コードを利用することで、現在人手を介している作業の自動化が行えるのではないかという質問を受けた。この企業では、倉庫に複数の企業から荷物が届き、貼付されているバーコードの体系、識別コードがバラバラなことが原因で、多くの無駄な作業が生じているという話である。もし、荷物に表示してある識別コード(バーコード)が標準化されていれば、新たに管理用のバーコード(ラベル)を貼る必要もないため、入荷検品作業などを軽減できる可能性がある。またその識別コードをRFID化すれば、バーコードの読み取り作業自体が自動化され、さらに効率化が促進されることが期待される。

GS1では、RFIDに関連する標準仕様の開発、維持管理も行っており、これらは公開されている。RFIDは今後の倉庫の自動化の決め手になる技術とも考えられており、検討する企業が増えている。荷物に貼付してあるタグは遠距離(4-5mくらい)から読むことができ、例えば、荷物を読み取りゲートに通すだけで、タグに書かれている情報を自動的に読むことができる。これにより作業の軽減化、無人化を図ることができるので、国内の多くの物流現場で抱えている問題を解決できる可能性がある。

本フォーラムでは、物流に関連するさまざまなセミナーを受講できるとともに、多くの物流関係企業のブースが出展されている。今後ますます本フォーラムの重要性が増し、来場者数も含めて規模も拡大していくことが期待される。

(RFID・デジタル化推進G 真間)



GS1 Japan  
パートナー会員

# 新規会員募集中！



流通業における情報システム化に関わる各種キーワード（GS1 標準、EPC、EDI など）を中心として、最新のシステム技術、システム化事例、業界動向、国際動向などの情報を共有し、流通業界全体のシステム化、標準化を推進することを目的とします。

※ 見学会につきましては、新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、実施するか検討しております。

## 2022年度イベント実績

GS1 Japan  
パートナー会員制度の  
詳細はウェブで



開催日	イベント名	主なテーマ・議題
2022 /6/21	第 1 回セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流で使える！ GS1 識別コード</li> <li>GS1 識別コードからウェブへつながる「GS1 Digital Link」</li> </ul>
2022 /7/27	第 1 回特別セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍における 流通と消費の展望</li> </ul>
2022 /8/9	第 2 回特別セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>GS1 Japan と JII およびプラネットの商品情報共同取り組みについて</li> <li>日用品化粧品業界における商品情報の取り組み 業界が支えるプラネットの商品データベース</li> <li>食品の商品マスターの流通 DX の方向性について</li> </ul>
2022 /10/14	<一般公開セミナー> GS1 標準によるDX, オムニチャネル環境 の業務革新 2022	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な EC 運営を通じて見えてきた今後の潮流と課題</li> <li>- 商品 ID の統合が実務に与える影響について考える -</li> <li>世界のネット販売で利用拡大する GS1 標準</li> <li>マスターデータだけじゃない！ 情報システム構築に関する GS1 標準とその利用可能性</li> <li>GS1QR による B2C での実施事例報告</li> <li>- 製品トレーサビリティによる消費者と事業者のインセンティブ -</li> </ul>
2022 /10/18	第 2 回セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>GLN（企業・事業所識別コード）の概要と利活用の期待</li> <li>EPC タグ・データ標準 2.0 のご紹介</li> </ul>
2022 /11/22	第 3 回セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例をたっぷりご紹介！ PoS レジで読み取る商品に表示する GS1 二次元シンボルの最新動向</li> <li>米国における GS1 標準を活用した業務効率化や安全性向上の取組</li> <li>- GS1 Connect 2022 参加レポート -</li> </ul>
2022 /12/20	第 4 回セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>GS1 事業者コードの最新動向</li> <li>GS1 事業者コードの登録から GTIN 設定までの流れ</li> </ul>
2023 /2/21	第 5 回セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーサビリティに！ 業務効率化に！ 人手不足に！ GTIN+ 属性情報を表示する GS1 標準バーコードのつくりかた</li> </ul>

